

学校法人 聖ヶ丘学園 八幡橋幼稚園

2020年度（令和2年）自己評価結果公表シート

八幡橋幼稚園では、本園の教育理念、教育目標達成に向け、2020年度の学校評価（自己評価）を実施しましたので、以下のとおりご報告します。

【自己評価】

- (1)対象者：全職員13名（在籍14名中1名は育児休暇取得中）
- (2)実施日：2021年2月25日～3月5日
- (3)実施方法：職員全体会議において、全職員に学校評価 幼稚園チェックリストを配付し、幼稚園の取組み状況や 自分自身の取組み状況について評価を求めた。

1. 学校の教育目標

事業の目的：本園は、学校教育法第22条及び第23条に基づき、義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとして、幼児を保育し、幼児の健やかな成長のために適当な環境を与えて、その心身の発達を助長することを目的とします。

教育方針：子どもの自発的な活動が確保されるような環境を整え、子ども一人ひとりの個性を尊重し、遊びを通して社会性、想像力を育み、生涯にわたる人格形成の基礎を培う役割を担います。

教育目標：○自分で考えて主体的に行動できる子 ○相手の気持ちを考えそのうえで自分を表現できる子 ○夢を描ける子

2. 本年度の学校評価の具体的な目標や計画

園の教育及び教育方針、教育目標のもと、評価項目に従って自己点検、自己評価を実施することにより、職員自らが客観的に自園を見る目を養い、施設の改善、教育及び保育内容の改善に向けた取り組みを目指していく。また、今後教職員全体の共通理解を深め、さらによりよい園の運営を図る足掛かりとしたい

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	理由
I 教育目標 ・教育方針	教育目標・教育方針はしっかりと職員が共通の意識を持っていて、いつでも園長はじめ先生方と話し合える場がある。“明るく素直にのびのびと”子供たちの中に生きていると思う、また明日も登園を楽しみにできるような保育を心掛けている。
II 教育課程 ・指導計画	幼稚園教育の目標を達成するため各学年の発達の特性を踏まえ教育課程に沿った指導計画を立て、子どもたちが興味を持てるような環境設定をしている。子どもの意見を取り入れ主体性を大切にしながら話し合い、振り返りをして保育を行い思い切り活動できるよう心掛けている。コロナ禍において計画してい

	た保育活動や行事を行うことが難しい中、地域とのかかわりが大切だということを感じた。
III 教育環境	今年度はコロナ禍ということで、公園へ出かけたり、散歩に出かけたりすることができず残念だったが、子どもたちが過ごしやすい保育環境づくりをしている。子どもたちが何をやりたいかを見守り、職員同士は、今、子どもたちにとって何が大切なのか、どうすれば楽しくあそべるか常に考え、話し合い、より良い環境設定をしている。いつ、どこでも子どもたちが思い切りあそび続けることができるように、季節に合った環境づくりとしてコーナーあそびを設けている。(毛糸からげ、ろうそく作り、編み物など)
IV 教育の内容・方法	身近なものに興味、関心を持って、何ごとにも自主的に取り組めるように支援している。園外や様々な活動が制限される中、子どものやりたい気持ちを大切にし、個別の対応も丁寧に関わった。 絵本や物語などに多く触れ、一人ひとりの個性に合わせて、強制するのではなく“興味を持つ”ということを大切に全職員が関わりイメージを広げて楽しめるようにした。また、園庭で野菜や草花を育てたり、虫や小動物を飼育したりすることにより、豊かな思いやりの心が育つよう心掛けている。遊具、教具、自然の素材（羊毛100%の毛糸など）を使用し、遊びを通していろいろなことを経験し、学べるよう小さい時から本物に触れ、感性の育ちを大切にしている。日々、子ども主体の保育を目指して職員間の意見交換を大切に行っている。
V 教師の役割 ・資質向上	職員間で常に子ども一人ひとりの姿を情報交換し、非常勤職員も全園児の様子を理解した上で関わっている。今年度はコロナ禍ということで研修に行く機会が少なかったが、今まで勉強してきたことを生かせるよう心掛けた。 研修報告や子どもの様子など会議録を作成し、情報共有している。一人ひとりの子どもに専門性のある温かい声かけを行ない、保護者との関係性もとても円満である。
VI 子育て支援	保護者からの子育て相談については、丁寧に時間を掛けて対応している。担任、時には主幹教諭・園長が窓口となり相談内容に応じた支援をしている。保健センター・療育センターともしっかりした関係ができており、連携を図っている。3歳未満の親子は園行事に参加してもらうことだけなので園庭開放など取り入れて八幡橋幼稚園の教育環境の良さを入園前に知らせていきたい。 入園前のお子さんや園庭開放は、預かり保育充実のため、実施できていないところに課題があるが、今年度は園長が地域の子育て支援施設（親と子の集いの広場）に参加し、交流を深めた。 今年度はコロナ禍ということで保護者会や保育参加などできないことがあったので、保護者と話す時間を大切にしていきたい。 保護者対応を親身におこなっている。 園庭開放はスペース的に難しいのが課題である。
VII 地域住民や関係	地域の高齢者が中心になって行う、磯子祭りポスター作成、サケの放流など

機関との連携	<p>に積極的に参加しているが直接お年寄りと交流することは難しく課題である。</p> <p>今年度はコロナウイルスの影響で計画していても実行が難しかったが近隣の小学校や保育園とのかかわりは継続している。</p> <p>小学校就学に向けて小学校の先生との連携も密にとっている。</p> <p>コロナ禍で園外での活動、交流が少なくなっているが可能な範囲で交流を大切にし、行事の際に小学校校庭を貸していただくなど協力していただいた。おたのしみ会や人形劇などの行事で地域のパン屋さんの協力をいただいた。</p>
VIII 運営管理	<p>就業規則等はしっかり確認し、守秘義務は守っている。現金の管理、安全点検、衛生管理等、それぞれの立場で適切に行っている。災害、事故報告書は担当者のみが記述しているため、作り方を全職員に徹底させ意識を高めた。</p>

4. 本年度の学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
A	<p>自己評価を行うことにより、各自が自分を振り返る機会を持つことができたことを嬉しく思う。全職員が子ども主体の教育を目指し、環境の整備、活動の充実等、子どものやりたいことを思い切りやってきたことは評価できる。子育て支援、地域との連携等は次年度に向けての課題である。コロナウイルス感染症禍においても“安心、安全”で豊かな環境設定を行っていききたい</p>

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
教育課程の編成	<p>子どもたちの資質、能力にあった計画を立て、今を大切に、何をやりたいのかを即座に察知して、より楽しいあそびを展開していかれるように常に心掛けたい。全職員での取り組みを大切にしていく。</p>
保育環境の充実	<p>子どもの主体性を大事に意欲や探求を深められるように環境設定をしていく。</p>
安全管理体制の強化	<p>自然災害や火災等に対して実際の避難をイメージして訓練を毎月行い、振り返る。安全管理は全職員、統一の意識を持つ。園内、園庭遊具の点検を定期的に行う。感染症拡大防止の対策を継続する。</p>
教職員の資質向上	<p>園内での情報交換をきちんとする。常勤・非常勤の区別なく、誰もが共通の意識を持って全園児と向き合えるよう努める。園外研修で学んだことを全職員に報告し、学びを全員のものとする。</p>

学校評価 幼稚園チェックリスト<ステップ1>

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	今後取り組むべき課題

I 教育目標・教育方針

No.	具体的な内容	評価 (A B C D)
①	園の教育目標や教育方針はわかりやすい。	A
②	園の教育目標が子どもたちの中に生きている。	
③	園の教育目標や方針について、園長や他の先生方と話をする機会がある。	
④	園の教育目標は、幼稚園教育要領の内容に沿ったものになっていると言える。	
⑤	教育方針は、その時々々の幼児に合ったものになるように定期的に見直されている。	
⑥	園の教育目標は、園の創立の理念を生かしている。	

II 教育課程・指導計画

No.	具体的な内容	評価 (A B C D)
①	園の教育課程は、教育目標を生かして作られている。	A
②	子どもたちの年齢ごとの教育課程がある。	
③	園の教育課程は、園長と先生方が話し合いながら作られている。	
④	園の教育課程は、必要に応じて見直されている。	
⑤	幼児のしたいことや、興味のあることを取り入れられるようになっている。	
⑥	幼児の教育に、地域の自然や施設を活用している。	

III 教育環境

No.	具体的な内容	評価 (A B C D)
①	活動の環境を作る時には、指導計画を意識している。	A
②	幼児の動きや視線の動きに気を配った構成をしている。	
③	幼児の思いや言動を参考にしながら、保育室の装飾や展示を考えている。	
④	自然や社会とかかわりを持てるような体験（芋掘り、消防署見学など）を取り入れるようにしている。	
⑤	環境の構成について、先生方の中で積極的に意見交換が行われている。	
⑥	年齢の異なる幼児が、触れ合えるような環境構成をしている。	

IV 教育の内容・方法

No.	具体的な内容	評価 (A B C D)
①	教育内容や方法は、園の教育課程を基にして作られている。	A
②	幼児の家庭での様子を参考にしながら、援助の内容を工夫している。	
③	園で動物を飼ったり植物を育てたりしている。	
④	遊びを通してルールを学んだり、我慢したりといった経験を積めるような工夫をしている。	
⑤	幼児が意欲的に造形活動（描画・製作）をする時間を大切にしている。	
⑥	食べ物についての話をする機会がある。	

V 教師の役割・資質向上

No.	具体的な内容	評価 (A B C D)
①	一人ひとりの幼児をよく観察するように心がけている。	A
②	すべての幼児に平等に接するように心がけている。	
③	その場にふさわしい言葉遣いができる。	
④	研修に行った先生の研修内容は、全員に紹介される。	
⑤	幼児のモデルとなれるよう気をつけている。	
⑥	保護者との信頼関係ができています。	

VI 子育て支援

No.	具体的な内容	評価 (A B C D)
①	保護者の子育てについての相談にのっている。	B
②	園や園庭の開放を行っている。	
③	子育て支援の内容について全員で話し合いをしている。	
④	子育て講演、情報提供を行っている。	
⑤	3歳未満の、親子の子育て支援をしている。	
⑥	幼児のことについて相談できる専門機関がある。	

VII 地域住民や関係機関との連携

No.	具体的な内容	評価 (A B C D)
①	地域の人々と親しく挨拶ができる。	B
②	地域の小学校の行事や公開授業を見学に行く。	
③	地域の方は、園のことに興味を持ったり、園の方針を理解している。	
④	地域のお祭りや伝統行事に参加することがある。	
⑤	保護者だけでなく地域の人でも行事に協力している。	
⑥	地域のお年寄りとの交流を大切にしている。	

VIII 運営管理

No.	具体的な内容	評価 (A B C D)
①	園児や保護者のことを園の外で話題にしない。	A
②	現金の管理は間違いのないように行っている。	
③	先生方は、災害や事故報告書の作り方を知っている。	
④	保護者の意見はしっかりと聞き、園長に報告している。	
⑤	園の施設の安全点検、衛生管理をしっかりと行っている。	
⑥	園内での役割分担がはっきりと決まっている。	

以上